

学校向け学習eポータル



L-Gate

2021年11月11日
株式会社 内田洋行

1人1台・1アカウントを使った

日々の **学び** と **運用・管理** を支援する、

学校向け **学習eポータル** です。



PC・タブレットを活用した学びへの学習eポータル



シングルサインオン(SSO)による
学習コンテンツへの
簡単アクセス



1人1台・1アカウントの
運用・管理ができる



学校でも OK

家でも OK

クラウドサービスだから
どこでも使える



Windows
Chrome OS
iPadOS

マルチOS対応だから
いろいろな端末で使える



L-Gate

学校向け 学習eポータル



学びの状態を
可視化できる

GIGAスクール構想（文部科学省）

- 令和元年度から令和5年度までの計画として、**令和元年度補正予算**において、学校における児童生徒「1人1台端末」と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するための予算（2,318億円）が計上。
- **令和2年度第1次補正予算**において、「1人1台端末」整備の前倒しや、**家庭でも繋がる通信環境**の整備など、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子供たちの学びを保障できる環境の整備に必要な予算（2,292億円）が計上。

令和5年で達成するとしていた児童生徒「1人1台端末」と、高速大容量の通信ネットワークの整備が前倒し進められることとなった。

② 端末の整備状況 確定値

- 全自治体等のうち **1,744自治体等 (96.2%)** が整備済み、**68自治体等 (3.8%)** が整備未完了。
 以下の大部分の自治体においては、発達段階に応じて利活用場面を調整するなどの工夫を行い、活用が開始済み。

- 当該調査における「学習者用端末」については、可動式端末（タブレット型・ノート型）に限定している。
 - 「整備完了」とは、児童生徒の手元に端末が渡り、インターネットの整備を含めて学校での利用が可能となる状態を指す。
- 義務教育段階※における学習者用端末1台当たりの児童生徒数 **1.0人** ※ 小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校(前期課程)、特別支援学校(小学部・中学部)

(参考) 「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」における、小学校・中学校の学習者用端末1台当たりの児童生徒数

令和3年7月末時点で
全自治体の96.2%が整備済み



■ 整備済み ■ 未完了

<納品未完了の主な理由>

- 需給状況の逼迫により、一部の台数を先行して調達
- 全台数の予算確保が困難であったため、一部の台数を先行して調達 等

日野町(滋賀県)、大阪府、北栄町(鳥取県)、隠岐の島町(島根県)、下松市(山口県)、四方十町(高知県)、松浦市(長崎県)、南島原市(長崎県)、鹿児島市(鹿児島県)、屋久島町(鹿児島県)、今婦仁村(沖縄県)、渡名喜村(沖縄県)

【令和4年4月以降に整備完了予定：19自治体等】

江別市(北海道)、千歳市(北海道)、恵庭市(北海道)、新得町(北海道)、青森市(青森県)、むつ市(青森県)、横手市(秋田県)、高島町(山形県)、須賀川市(福島県)、相馬市(福島県)、千葉県、富里市(千葉県)、高浜町(福井県)、静岡市(静岡県)、大府市(愛知県)、御坊市(和歌山県)、大津市(滋賀県)、長浜市(滋賀県)、神崎市(佐賀県)

※ 以上の自治体 文部科学省 端末利活用状況等の実態調査（令和3年7月末時点）（確定値）より引用
進めている自治体

GIGA端末導入後の課題

**GIGAスクール構想 + 新型コロナウイルス感染症対策での前倒し
約900万台のタブレットPCが2020年度に小中学校に一斉に導入**

- 市区町村の教育委員会では、児童・生徒の多数のアカウント管理を行う必要に迫られる。多くの教育委員会において、これだけの数のアカウント管理は初めての経験であり、運用設計が十分にできない中の導入・運用となる場合がある。
- 複数のデジタル教材・ツールへ個別にアカウント・パスワードを管理し、かつ、使用時に都度サインインを行う従来の形態では、授業の進行に大きな妨げとなることが懸念される。
また、複数のデジタル教材・ツールの利用を効率的にする為に、ハブの役割としてのポータルがないと利用しづらい。

課題解決策

学習e-ポータルでの、アカウント管理、名簿の一元化の実現と認証連携機能（SSO）の提供により、課題を解決する。

1. アカウント管理の一元化

- 独自のアカウントを作成することなく、Office365 Education/ Google Workspace for Educationのアカウントを用いて利用可能とする。

2. シングルサインオンの実現

- Office365 Education/ Google Workspace for EducationとSSO可能な学習ツールであれば、認証連携を可能とする。
- 将来IMS技術標準の拡大を見据え、LTI V1.1/V1.3を実装する。

3. クラス名簿の共有

- アカウント管理の手間の低減に向け、校務システムの名簿情報の取り込みを可能とする為に、IMS技術標準のOneRoster V1.1 を実装する。

独自のアカウントを作成することなく、Office365 Education/ Google Workspace for Educationのアカウントを用いて利用可能。アカウントの登録・更新・削除をL-Gateから行える。



L-Gate


アカウント情報

- ID
- 学年/クラス/出席番号
- 学校名
- 役割(権限)
- 氏名

同期



アカウントの登録・更新・削除が完了


Microsoft
 Office 365 Education



 Google Workspace
 for Education

POINT

トラブル対応も更新作業も、L-Gateの分かりやすい画面で簡単!

例えば

パスワードリセット

サインイン時のトラブルにも、
先生やICT支援員、
GIGAサポーターがすぐに対応可能。

年次更新

クラス情報を自動複製するなど、
進級処理を支援します。

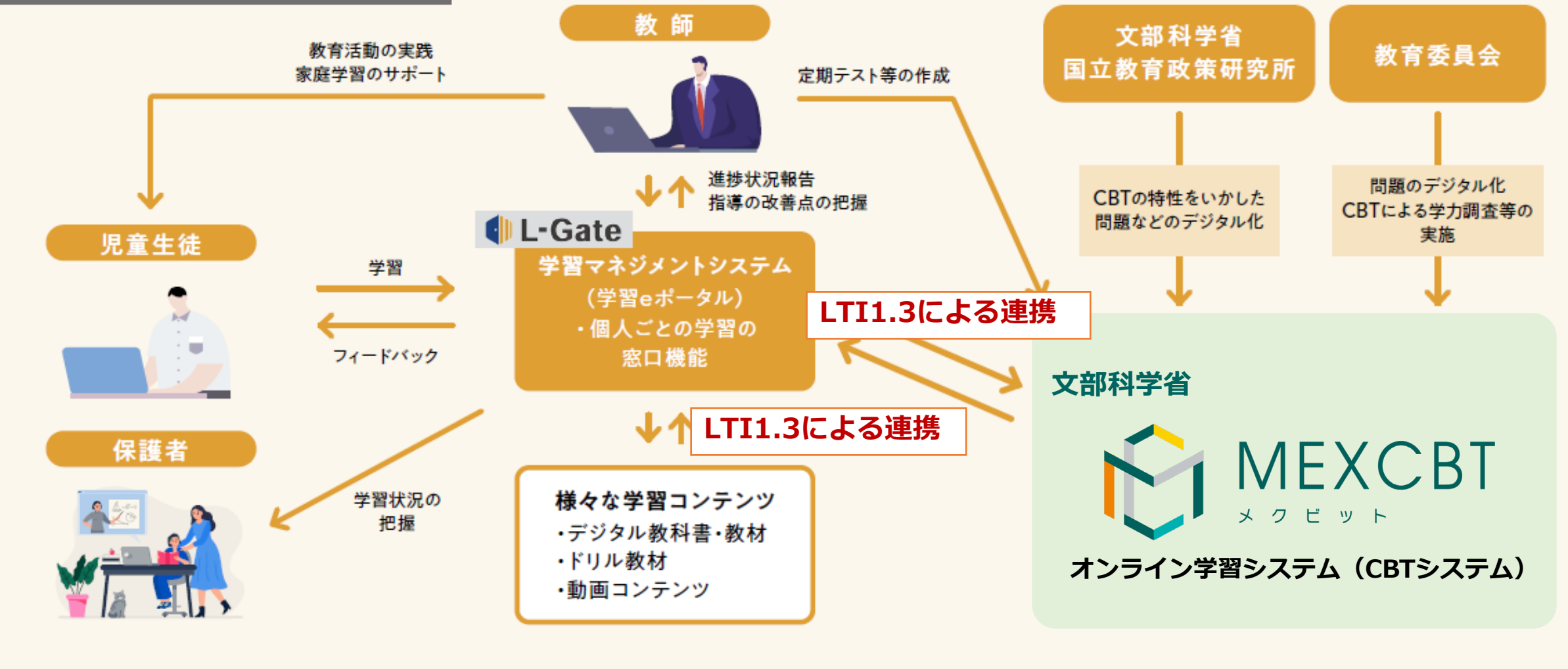
1. 認証基盤を介したシングルサインオン

- SAMLに対応することで、Office365 Education / Google Workspace for EducationにSSO可能なアプリケーションであれば、認証連携を可能とする。

2. IMS技術標準「LTI」による学習ツールとの連携

- LTI v.1.1 Tool Consumer / LTI v.1.3 Platformを実装
- LTIに対応した学習ツールとのシングルサインオン (LTI core) に加え、以下を実現
 - 学習ツール内の学習コンテンツへの直接アクセス (Deep Linking)
 - 学習ツールでの学習結果 (点数、コメント) の取得と表示 (Assignment and Grade Services)
 - 学習コンテキスト (クラス・コースなど) に基づく名簿情報の提供 (Names and Role Provisioning Service)

オンライン学習システムのイメージ



名簿情報の共有にIMS技術標準「OneRoster」を採用

- OneRoster ver.1.1 CSV形式に対応
- 他社学習ツールを含めたクラス名簿の一元化の実現

OneRoster実装 校務システム

名簿情報



児童生徒
教職員
氏名・学年・クラスなどの情報

取り込み



L-Gate

同期



アカウント

登録・更新・削除が完了



UCHIDA

統合型校務支援システム

デジタル校務

子どもたちの健やかな成長を見守り、
「日々の気づき」を大切にしたい

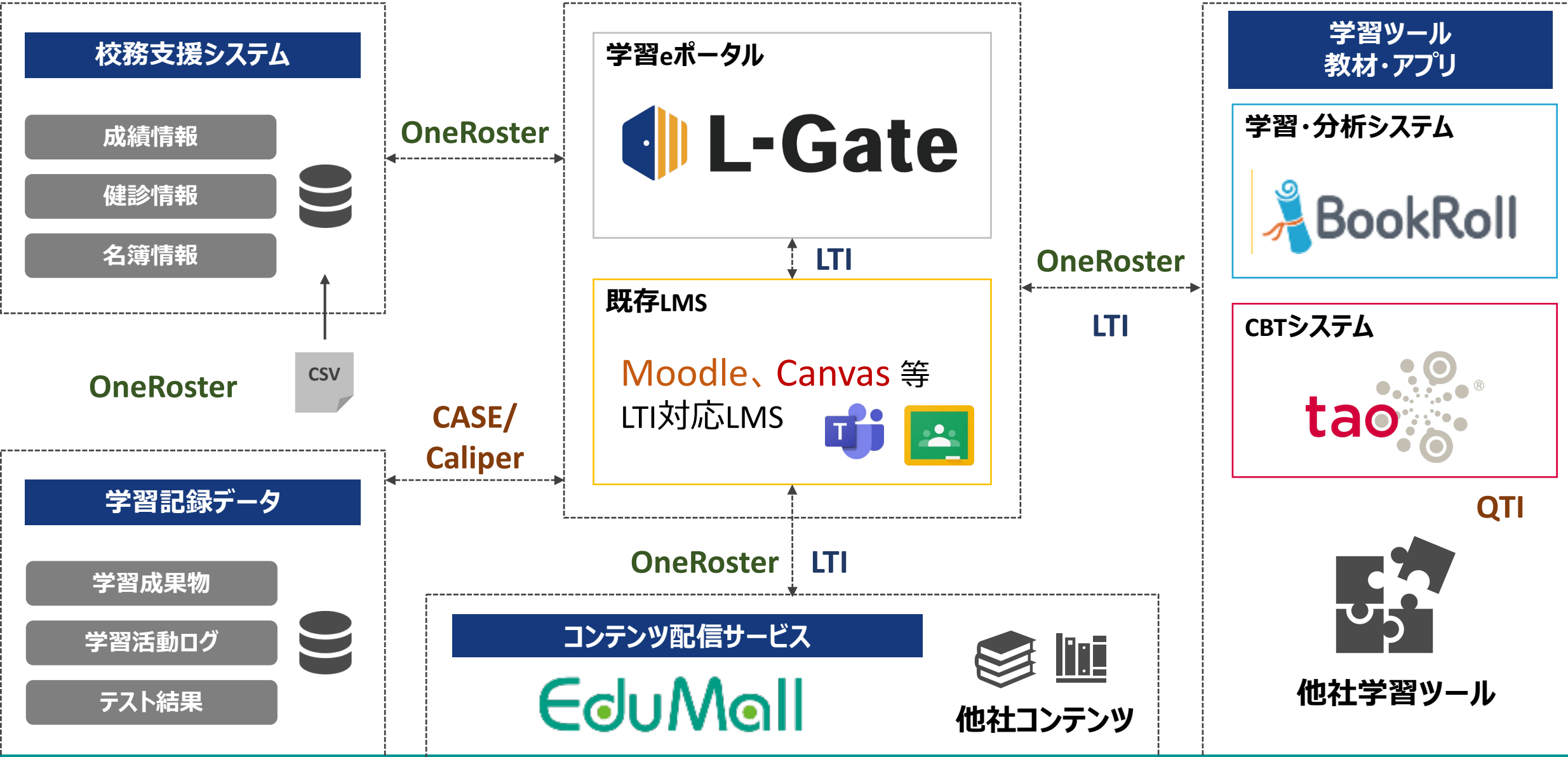
業務の軽減と効率化、
教育の質の向上に貢献します



アカウント管理の手間の低減

- L-Gateは2021年11月時点において、100万以上の登録アカウント数を有する。[L-Gateの基本サービスは無料で提供。](#)
- 文部科学省のオンラインテストの実証事業の学習プラットフォームとしても採用され、令和2年度～令和3年度上半期の実証事業において約14万人が利用。
- 文部科学省の定める学習eポータルの1つとして、令和3年度のオンライン学習システム実証事業に引き続き参加。

L-Gate 指向するオープンなデジタル・エコシステム



L-Gate

「L-Gate」は、今後も IMS Globalの他の技術標準を実装していくことで、各種システムやデジタルコンテンツとのスムーズな連携を可能とする学習eポータルの一つとして、特定のベンダーにとらわれないオープンなシステムとして展開し、「デジタル・エコシステム」の実現を目指します。

教育の未来を支えるICT



2021
111th
UCHIDA
Uchida Yoko Group
111th Anniversary

UCHIDA

情報の価値化と知の協創をデザインする。
創業から111年、内田洋行グループは、ICTと環境構築で「働く場」と「学ぶ場」を支えています。

株式
会社 **内田洋行**

ご清聴ありがとうございました。